

ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0042 千歳市東雲町3丁目2-6 千歳商工センター3階

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2026年10月27日発行【再刊第52号】

今号の話題

- サケ鍋、釣り堀今年も人気
第47回インディアン水車まつり
- 大阪で千歳産品をPR
阪急うめだ百貨店北海道物産展
- 「北海」1号機が市街地に
開港100年、市民有志が企画

青葉公園で初開催 秋の林間コースを爽やかな汗 北海道森林スポーツフェスタ ウッドボウリング、ツリーイングも 来場者の人気集める

「北海道森林スポーツフェスタ in 千歳2026」が10月18日、青葉公園内と同陸上競技場で開催されました。同公園では初開催で、出場者は豊かな自然の中を駆け巡る森林マラソン（10キロ、2・2キロ）や、ノルディックウォーキングを通して、中心市街地にも近い豊かな自然を感じるとともに、スポーツの秋らしい晴れた空の下、さわやかな汗を流しました。



タスキをつないで走る出場者

同実行委主催。観光連盟後援。フェスタは1998年に札幌市定山溪で開催して以来、今回で26回目です。千歳市内での開催は2022年2月から。同年の市による「ゼロカーボンシティ宣言」とともに、環境省が支笏湖地区を全国6番目の「ゼロカーボンパーク」に登録したのを契機としています。参加者がスポーツと自然の中での遊びを通して、環境保全と自然保護を意識してもらうことが狙いで、今年も実行委員長は小田賢一観光連盟会長が務めました。



陸上競技場をスタート／ゴール地点として小中学生や親子、成人のランナーが出場。今年は横田隆一市長、小田実行委員長、井上英幸セブン・イレブン記念財団社会貢献推進委員がスターターを務めました。選手たちはビストルの合図でスタートを切り、木々の葉が色づき始めた秋らしいコースを疾走。今年は初めて、タスキリレー（8・7キロ）も実施。3人1チームが競技に臨み、タスキをつないで力走する姿が見られました。会場では地面に並べた木片を木片を投げて倒すウッドボウリング、ロープで木に登るツリーイングが来場者を楽しませました。

第47回インディアン水車まつり サケ鍋、イクラ弁当、今年も人気 釣り堀、ステージイベントも盛況

サケの遡上する季節に千歳川の近くで秋の味覚を楽しむ、第47回インディアン水車まつりが9月26、27日、道の駅サーモンパーク千歳で開催されました。人気のサケ鍋、イクラ弁当などが提供されたほか、釣り堀や音楽などのステージイベントが訪れた人を楽しませました。



サケ鍋やイクラ弁当の販売コーナーには列ができるほどの人気ぶりでした

観光連盟も加入する同実行委員会の主催。千歳川とサケ、道の駅に親しんでもらう恒例企画です。サケ鍋はサケと野菜がふんだんに使われた人気メニューで、イクラ弁当とともに人気を集め、販売ブースでは買い求める来場者の列ができました。会場内では露店が

焼き鳥やフライドポテトを販売するなど、縁日の華やかさがあふれました。ステージでは千歳機甲太鼓の演奏をはじめ、ヨサコイの演舞、ジャズなどのバンド演奏のほか、サモン君の〇×クイズ大会&写真撮影会、丸太切りレースなども行われました

付近の小川にはヤマメが放流された釣り堀も用意。家族連れが釣



小川を利用したヤマメを釣れる釣り堀も人気でした

り糸を垂らしてあたりが来るのを待ち、見事釣りあげると喜びの声が上がっていました。

千歳アイヌフェスタ 地元の伝統を発信

行楽客に舞踏、漁法伝える

千歳アイヌ協会と千歳アイヌ文化伝承保存会の皆さまによる「千歳アイヌフェスタ」が10月3日、4日、道の駅サーモンパーク千歳とサケのふるさと千歳水族館で開催されました。古来、千歳に伝わる

る古式舞踊を披露したほか、サケを捕るための伝統漁具「マレク」を用いた漁の体験を行い、訪れた人がアイヌ文化の奥深さに触れました。

千歳川では今年もサケが遡上しています。サケを大切な食料の一つとして生活してきたアイヌ民族の、千歳に伝わる文化に触れてもらおうと、毎年企画しています。

水族館前で行われた古式舞踊の演舞では、民族楽器ムツクリの演奏や、勇壮なクリムセ（弓の舞）、ホリッパ（輪踊り）が披露され、ホリッパでは訪れた観光客らが踊りに加わる一幕もありました。



マレクででのサケ漁を体験する子どもたち



サケ漁の体験では、柄の先端に、紐のついた鉄鉤（てつかぎ）を取り付けた伝統的なもり「マレク」を使用しました。小中学生が水族館近くの池に放たれたサケに狙いを定めてマレクで突き、上手く捕らえる難しさを体験。慣れない漁具の扱いに苦戦しながらも、保存会の会員からアドバイスを受けながらチャレンジを繰り返し返しました。

会場では子供向けのプラバンネームプレート作り、鹿角加工や木彫といったワークショップも開かれ、参加者がものづくりを楽しみました。

大阪阪急梅田百貨店、物産展に出展

千歳産品、空港100年をPR

市商業労働課ともさらなる連携へ

観光連盟は、大阪阪急うめだ百貨店で開催された「秋の北海道物産大会」（9月21日～9月30日）に昨年に続いて出展しました。市内企業の製品を紹介し、来場者の注目を集めました。

会場では天のびろくのギョーザ、肉の山本のジンギスカンなど、千歳市内の企業が手掛けた商品を



ギョーザやジンギスカン、コーヒーソフト等の千歳産品を販売しました

紹介し、東亜珈琲館空港店のコーヒーソフトなどを実演販売しました。ほかにもチーズケーキやキムチ製品といった品物も提供し、訪れた人の注目を集めました。

物産展の前半のテーマは空港開港100年でした。ブースではパネルやパンフレット、節目を記念したロゴを通して新千歳空港の空港開港100年を周知するとともに、クラフト体験コーナーも設けるなど、千歳市をPRできました。

観光連盟は千歳市の商業労働課と連携して、特産品販売促進事業者の商品を現地で販売できました。今後も道外百貨店等での展開について、意見交換をしながら連携を図って行きます。

北海一号機が中心部にお目見え 空港開港100年記念し市民有志が企画



グリーンベルトにお目見えした
北海1号機のレプリカ

千歳市民や航空会社幹部ら有志でつくる団体「スピリット・オブ・チトセの会」は、100年前に千歳に初めて降り立った北海1号機のレプリカを、1日限定で市内中心部のグリーンベルトに展示しました。

今年10月で、新千歳空港の源流となる着陸場が千歳村村民

の手で造成されて100年の節目を迎えました。着陸場に初めて着陸したのは、酒井憲次郎操縦士が操縦桿を握る北海第1号でした。現在は実物を模した原寸大レプリカが千歳市蘭越の名水ふれあい公園の屋内施設内に常設展示されています。

中心市街地での展示は、まちの節目の年に、多くの市民に北海1号機に親しんでもらおうと企画。展示の日は晴天に恵まれ、北海1号機の飛来は、先立って札幌から観楓会に訪れた行楽客を村民が歓迎したことへの、返礼だったとされています。村民は三平汁や山葡萄酒で行楽客を接待したと記録されており、レプリカ展示会場ではこの史実にちなみ、サケと大根、ニンジンを入った三平汁も販売。北海1号機を前に、空港の起点となった100年前に思いをはせながら味わう温かい三平汁は格別なものだったようです。

イベント情報

▼ちとせ特産品マルシェ
(2026年10月31日、道の駅サーモンパーク千歳) 千歳市商業労働課主催、観光連盟が協力。千歳のグルメを発信します。たいやき、和牛、韓国料理、ギョーザ、クラフトビール、ワインと行った地元グルメのブースが出店。プレゼンともあります。

▼「鮭活」(2026年11月、サケのふるさと千歳水族館) 11月11日の「鮭の日」にちなんだイベントを実施します。「サケの採卵体験」「サケ皮クラフト」、「サケの解剖見学&サケのサケ発掘体験」などを開催。有料企画もあるため日時などの詳細はホームページをご確認ください。

▼第13回新千歳空港国際アニメーション映画祭(2026年11月20日〜24日、新千歳空港ターミナルビル・新千歳空港シアター)。

北海道と世界を結ぶ新千歳空港ターミナルビルを会場としたアニメーション専門の映画祭です。2014年の初開催依頼、国内外のアニメファンから注目されてきました。コンペティション部門では短編、長編をはじめデジタルサイネージ部門を実施。特別企画・招待上映もあります。

▼千歳・支笏湖水濤まつり・氷の美術館(2027年1月30日〜2月23日、千歳市支笏湖温泉)。支笏洞爺国立公園運営協議会(観光連盟が事務局を支援)の主催。大小約30基の氷像が並び、昼間は支笏湖ブルーと呼ばれる美しい青が、夜間は色とりどりにライトアップされた幻想的な風景で来場者を迎えます。入場料は平日中学生以上1000円(小学生以下無料)、土日祝日は中学生以上3000円(小学生以下無料)。

編集後記

散歩の途中、歩道と道路の間にわずかに土のある隙間に、高さ5センチほどの小さなモミジを見つけたのは9月半ばのことでした。このままでは大きく成長できないうちと思いい、そつと引き抜いて、自宅で小さな鉢に植えました。

そのモミジが10月に入り、葉を赤く色づかせています。葉を4枚しかつけない小さい木、というより苗と言っているサイズですが、小さいながらもモミジらしさを存分に発揮しています。ベランダから、屋内の窓際に置いてみました。部屋に秋がやってきたようです。

小さな自然を迎え入れ、千歳の豊かな自然と自分より近くなったような気がする秋です。(ひ)